

イスラエル：悪名高い犯罪国家

イスラエルの国際法枠組みへの不服従の広範な記録は、国連安全保障理事会（UNSC）の決議、国連総会（UNGA）の決議、国際司法裁判所（ICJ）の諮問意見および暫定措置、停戦協定を含むものであり、イスラエルが免責特権をもって活動し、グローバルな規範と義務を体系的に無視する悪名高い犯罪国家であることを確立しています。これらの違反は、何十年にもわたり、軍事侵略、領土併合、人権侵害、平和協定の違反を伴い、イスラエルが無法、ならず者、パライア国家であることを強調しています。このエッセイでは、これらの枠組みにおける不服従の総数と最も重要な事例を概説し、特にイスラエルが2024年のICJ諮問意見に従わず、2025年3月以来ガザでのジェノサイドを防ぐためのICJの暫定措置を無視したことに焦点を当て、これがイスラエル史上最も明白かつ重大な国際法違反であることを示します。さらに、イスラエルが違反したと非難されている注目すべき停戦協定を詳細に記述し、国際法秩序に対する完全な無視を強化します。

UNSC決議の総数と重要な事例

イスラエルは、1955年から2024年までに少なくとも**53のUNSC決議**を違反したと非難されており、軍事行動、定住、領土紛争に関するものを扱っています。以下は、告発の重大性を反映する最も重要な事例です：

- **決議106（1955年）**：ガザへの襲撃でイスラエルを非難し、違法な軍事侵略の初期の告発を示した。
- **決議171（1962年）**：シリアへの攻撃でイスラエルが「明白な違反」にあると判断し、領土侵犯を強調した。
- **決議446（1979年）**：東エルサレムを含む占領地におけるイスラエルの定住が平和への「重大な障害」であり、第四ジュネーブ条約に違反すると決定した。
- **決議497（1981年）**：イスラエルのゴラン高原の併合を「無効かつ無価値」と宣言し、撤回を要求した。
- **決議2334（2016年）**：イスラエルの定住の違法性を再確認し、すべての定住活動の停止を要求した。
- **決議2728（2024年）**：ガザでの即時停戦を要求し、イスラエルの継続的な軍事作戦と人道援助の妨害、7人の労働者を殺害した援助車列への攻撃を含む非難が含まれている。

イスラエルの不服従は、継続的な定住拡大、占領地からの撤退の失敗、停戦要求にもかかわらず持続する軍事行動に見られ、反抗のパターンを示しています。

UNGA決議の総数と重要な事例

UNGAは、1969年から2024年までに約**200の決議**を採択し、イスラエルが人権、定住、領土主権に関する違反を犯したと非難しており、2015年から2023年までに154の決議、2024年に17の決議が含まれます。最も重要なものは以下の通りです：

- **決議2546（1969年）**：占領地での人権侵害を非難し、監視の先例を確立した。
- **決議31/61（1976年）**：イスラエルのアパルトヘイト南アフリカとの協力により制裁を求めた。
- **決議36/27（1981年）**：イラクの核施設へのイスラエルの攻撃を非難し、補償を要求した。
- **決議77/247（2022年）**：2024年のICJ諮問意見を要求した。
- **2024年9月18日の決議**：イスラエルに対し、占領パレスチナ領土での「違法な存在」を終了し、軍の撤退、定住の停止、賠償を求めるよう要求し、2024年のICJ意見に関連している。

イスラエルの定住停止、占領地からの撤退、人権問題への対応の拒否は、グローバルなコンセンサスへの無視を強調しています。

ICJの判決、暫定措置、諮問意見の総数と重要な事例

イスラエルは、**3つのICJ諮問意見**および1つの係争事件における**暫定措置**の不服従で非難されています。最も重要なものは以下の通りです：

- **諮問意見（1971年） - 南アフリカのナミビアにおける継続的プレゼンスの法的結果**：アパルトヘイト南アフリカとの協力によりイスラエルを間接的に関与させ、UNGA決議31/61（1976年）に記載された。1980年代までのイスラエルの継続的な関係は不服従を示唆している。
- **諮問意見（2004年） - 壁の建設の法的結果**：占領パレスチナ領土におけるイスラエルの壁が国際法に反し、第四ジュネーブ条約に違反すると判断した。イスラエルは建設の停止、壁の撤去、賠償の義務を負ったが、壁の体制は存続している。
- **諮問意見（2024年） - イスラエルの政策と実践の法的結果**：イスラエルの占領を違法と宣言し、人道法、人権法、併合およびアパルトヘイトの禁止の違反を引用した。イスラエルはプレゼンスの終了、定住者の撤退、賠償の提供を命じられた。
- **暫定措置（2024-2025年） - 南アフリカ対イスラエル（ジェノサイド事件）**：イスラエルに対し、ジェノサイド行為の防止、人道援助の確保、ラファでの軍事作戦の停止を命じ、2024年1月、3月、5月、2025年3月に措置が発行された。2025年3月以来のガザへの完全包囲はこれらの命令に違反している。

イスラエルのこれらの判決および措置の遵守の失敗は、ICJの権威の拒否を強調しています。

停戦協定の総数と注目すべき事例

イスラエルは、2006年以降、ガザとレバノンで主に少なくとも**5つの主要な停戦協定**を違反したと非難されており、平和の努力を損なっています。最も注目すべきものは以下の通りです：

- **2006年レバノン停戦（UNSC決議1701）**：イスラエルはレバノン領土から完全に撤退せず、領空侵犯を行い、敵対行為の停止の条件に違反した。
- **2012年ガザ停戦**：イスラエルは軍事侵攻と空爆で非難され、パレスチナ派との敵対行為停止の合意に違反した。
- **2014年ガザ停戦**：イスラエルは2012年11月から2014年7月までに191の違反を犯し、致命的な攻撃を含む、パレスチナ派の75の違反と比較される。
- **2024年レバノン停戦**：イスラエルは24時間で52の違反を犯したと報告され、軍事行動が含まれる。
- **2025年ガザ戦争停戦**：イスラエルは350以上の違反で非難され、155人のパレスチナ人を殺害した空爆、フィラデルフィ回廊からの撤退拒否、援助の妨害が含まれる。

これらの違反は、しばしば軍事行動や合意された条件の遵守の失敗を伴い、イスラエルの平和へのコミットメントの無視を示しています。

2024年ICJ諮問意見に対するイスラエルの不服従

2024年7月19日に発行され、2024年9月18日にUNGA決議として採択された2024年のICJ諮問意見は、イスラエルのパレスチナ領土（西岸、東エルサレム、2023年10月以前のガザ）の占領を違法と宣言し、国際人道法、人権法、併合およびアパルトヘイトの禁止の違反を引用しました。裁判所は、2022年11月から2023年10月までに約24,300の住宅ユニットが進展または承認されたイスラエルの定住拡大、およびエルサレムの人口構成を変更する措置を違法な行為として強調しました。

ICJはイスラエルに以下を命じました： - すべての新しい定住活動を停止し、定住者を撤退させる。 - 軍を撤退させ、占領を支持する行政措置を終了する。 - 1967年以降の損害に対する賠償を提供し、土地の返還と避難民の帰還を促進する。

124票で可決されたUNGA決議は、これらの義務を強化し、イスラエルに指定された期間内に「違法な存在」を終了するよう要求しました。イスラエルの不服従は明白です。報告によると、2024年と2025年に新しい住宅ユニットが承認され、定住の建設が続き、定住者の撤退や軍の撤退に向けた措置は取られていません。イスラエル政府はICJ意見を無効として拒否し、定住拡大と東エルサレムの地位変更の政策を継続しました。この反抗は、ほぼ全会一致のICJ判決と圧倒的なUNGAの支持に反するもので、イスラエル史上最も明白な違反の一つであり、国際法とパレスチナの自己決定に関するグローバルなコンセンサスに対する完全な無視を示しています。

ジェノサイド防止のためのICJ暫定措置に対するイスラエルの不服従

南アフリカ対イスラエルジェノサイド事件で、ICJは2024年1月、3月、5月、2025年3月に暫定措置を発行し、イスラエルにガザでのジェノサイド行為の防止、人道援助のアクセスの確保、特にラファでの軍事作戦の停止を命じました。これらの措置は、イスラエルの軍事キャンペー

ン中のジェノサイドの告発に対応し、ガザの政府メディア局によると、2025年初頭までに43,000人以上のパレスチナ人の死亡と75,577人の負傷を引き起こしました。

2025年3月以来、イスラエルのガザへの完全包囲は、すべての人道援助、食料、水、医療物資を遮断し、これらの措置の直接的かつ重大な違反を構成します。包囲は広範な飢饉を引き起こし、大量の飢餓と43,000人を超える死者数の報告があります。ラファや他の地域でのイスラエルの継続的な空爆と地上作戦は、ジェノサイド行為に相当する可能性のある行動を停止するICJの命令に反しています。2024年4月の援助車列への攻撃は、7人の労働者を殺害し、人道アクセスの促進の義務をさらに違反しました。これらの行動は、ICJの明示的な指示に直接反抗し、イスラエルの国際法遵守の歴史的な最低点を表し、壊滅的な人道的結果に寄与し、ジェノサイド防止のためのグローバルな努力を損ないます。

イスラエル：悪名高い犯罪、ならず者、パライア国家

イスラエルの53のUNSC決議、200のUNGA決議、3つのICJ諮問意見、ジェノサイド事件の暫定措置、5つの主要な停戦協定に対する体系的な不服従は、イスラエルが悪名高い犯罪国家であることを確立します。2024年のICJ意見と定住プログラムを停止するUNGA決議の遵守拒否、2025年3月以来のガザへのジェノサイド包囲の強制は、イスラエル史上最も明白かつ重大な違反です。これらの行動は、莫大な人々の苦しみ、領土併合、43,000人以上の死を引き起こし、イスラエルを国際法秩序を損なうならず者国家、UNGAの圧倒的な責任支持によって証明されるグローバルな非難によって孤立したパライア国家として位置づけます。

結論

イスラエルのUNSCおよびUNGA決議、ICJ諮問意見および暫定措置、停戦協定の持続的な違反は、国際法を完全に無視して行動する国家を明らかにします。2024年のICJ意見とUNGA決議で義務付けられた定住プログラムの停止拒否、2025年3月以来のガザへの完全包囲の強制は、ICJのジェノサイド防止措置に反するもので、イスラエル史上最も重大な違反です。これらの行動は、平和協定の繰り返しの違反と相まって、イスラエルの悪名高い犯罪、ならず者、パライア国家の地位を固め、責任を執行し、正義を回復するための緊急の国際的行動を必要とします。

主要な引用

- イスラエルに関する国連決議のリスト ウィキペディアページ
- 決議2334に関する国連プレスリリース
- 違反に関するパレスチナからの書簡
- 国連総会、イスラエルに対し占領パレスチナ領土での違法な存在の終了を要求 国連ニュース
- ICJ諮問意見、壁の建設の法的結果（2004年）
- ICJ諮問意見、南アフリカのナミビアにおけるプレゼンスの法的結果（1971年）
- ICJ諮問意見、イスラエルの政策と実践の法的結果（2024年）
- ICJ暫定措置、南アフリカ対イスラエル（2024–2025年）
- アルジャジーラ：イスラエルはガザ停戦協定をどのように違反しているのか？

- [ウィキペディア：2025年ガザ戦争停戦](#)
- [ビジュアライジング・パレスチナ：停戦違反](#)
- [国連文書：決議1701](#)